

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	平野区
学 校 名	喜連小学校
学校長名	北野 元靖

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・喜連小学校では、第6学年 52名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語の平均正答率は、大阪市平均より1%上回ったが、全国平均はわずかに0.8%下回った。
- ・算数の平均正答率は、大阪市平均より3%、全国平均も同数のため3%下回った。
- ・理科の平均正答率は、大阪市平均より2%、全国平均より4.1%下回った。
- ・平均無解答率は、国語が大阪市平均より2.1%、全国平均より2.6%低かった。算数は大阪市平均より1.3%、全国平均より1.6%低かった。また、理科は大阪市平均より1.1%、全国平均より0.9%低かった。

平均正答率は、国語のみ大阪市の平均を上回ることができた。

なお、平均無回答率についてはどの教科でも大阪市や全国平均より下回ったことから、正答率にこそ結びつかなかったが、本校児童の解答率が比較的高い結果であったといえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

国語では、「言語の特徴や使い方に関する事項」の領域が、全国、大阪市を大きく上回っている。また、「情報の扱いに関する事項」の項目も高く、特に「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかみる」という趣旨の正答率が高かった。本校の研究教科として、本年度から社会科に取り組んでおり、資料から読み取り表現する力が定着してきた成果であると考ええる。

〔算数〕

算数では、すべての領域において全国、大阪市の平均を下回ってしまった。ただし、「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかみる」の項目については、全国や大阪市と比べても5ポイントと大きく上回っていた。また、「測定」「変化と関係」の領域は正答率が他と比べても低く、この2つの領域については、正答率の結果から数直線上に示された数を分数で書くなどの単位当たりのことについて課題があると考ええる。

〔理科〕

理科についても、ほとんどの領域において全国、大阪市の平均を下回ってしまった。ただし、「観察・実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができる力」が高いことや、「根拠をもとに理由を予想し、表現できる力」が高いことなどから表現する力が定着してきていると考ええる。

質問調査より

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」については、肯定的な意見が高く、全国、大阪市を大きく上回る結果となった。

「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか」「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」についても、全国、大阪市の平均を上回る結果となった。

一方で、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」については全国、大阪市の平均を大きく下回った。

今後の取組(アクションプラン)

今後も基礎基本の定着を目指して学習を進め、短期学習や個別指導を充実させる等、理解度に応じた学習のあり方を模索していく。また、現在、「ブロック化による学校支援事業」を活用し、6年生ではリーディングスキルテストを導入している。一方で、体験活動への取り組みとして本年度もクラフトパーク（本格体験プログラム）を取り入れた。